（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2292300205		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街富士川		
所在地	静岡県富士市岩淵１３１－１		
自己評価作成日	令和5年9月27日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2292300205-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34　1階
訪問調査日	令和5年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者毎に介護度が違い、ADLや体調にも差があることから常に全体で過ごすことは難しいが、職員の入れ替わりが少なく利用者毎に把握できていることが多いのでそれぞれに合わせたケアを実施できていると思う。また、ほとんどが、各週ごとに往診を受け、毎月訪問歯科を受けていることで体調や状態の変化にいち早く対応することができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所理念「One for all,all for one」を掲げ、併設の小規模多機能事業所と共に、理念の実践に取り組んでいる。管理者・職員は、店長会議、全職員一斉LINEやミーティング、年2回の個人面談、法人内部研修等により、法人及び職員間の情報共有と意見抽出を図り、利用者の暮らしぶりを支援している。お便り「あっとほーむ」や施設内見学により、事業所での暮らしぶりを伝えて、家族との関係継続を図っている。散歩時の声掛けや差し入れ、カラス避け対策など、日頃から地域住民としてのつきあいを継続している。月2回の訪問診療と法人の常勤看護師により、利用者の健康を管理するとともに、夜間緊急時でも、職員は安心して対応ができる。毎朝の換気と定期的な消毒・清掃を行い、感染防止・衛生に配慮した環境作りに努めている。職員は、安全に配慮して整理整頓、室温・調光管理を行い、利用者がくつろげる共有空間作りを心掛けている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	One for all,all for oneを理念に置き、利用者毎の訴えに耳を傾けること、スタッフと利用者が、スタッフ同士がよい関係を築けるように心掛けている。	管理者は、毎月1回店長会議にて法人内他事業所との意見交換・情報共有を図っている。全職員との一斉LINEや毎月行うヘルパーミーティング、毎日の申送りにて職員間の情報共有を図り、事業所開設時からの理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの流行で、地域との交流の機会が極端に減少。その後、制限が減ったものの不安定な状況は続くものの可能な限り、利用者家族や知人の面会などを受けいれるように努めている。	コロナ禍によりイベント参加などの交流は制限してきたが、利用者家族や職員の多くが地域住民でもあり、日頃から散歩時の声掛けや、米・野菜の差し入れ、カラス避け対策など、地域住民とのつながりのある交流ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な講習などを行ってはいないが、認知症のある利用者が生活している場であることは認識されており、介護相談や利用の申し込みなどの電話や訪問がある。また、散歩の際などに声をかけてもらったり動けなくなっている人がいるけど利用者さん？などと連絡を貰うこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	制限が緩和されたことろから通常開催となり、これまでのように利用者の状況などを載せた資料の配布とともに、面会や見学の機会をもうけて気が付いたことを話し合う場とすることもある。また、内容をスタッフに伝え、サービスの向上につなげられるように心掛けている。	コロナ禍でも書面開催にて、2か月に1回継続して実施してきた。制限緩和により、併設する小多機事業所と共に、市・地域包括支援センター職員、家族が参加する施設見学の機会を設けるなど、意見交換を図りながら事業所運営に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問が再開されるとともに、地域包括支援センターに困難事例の相談を行っている。	運営推進会議における意見の聴き取りや富士市GH連絡会への参加（オンライン）など、事業所運営について、常に相談することができる。法人本部とも連携しながら、協力関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の対象となる利用者が無いことから、研修により事例の確認などを実施。日中は入り口や玄関の施錠を行わないが徘徊するなど注意すべき利用者はあるので、制止が不適切とならないように申し送りや記録、見守りを細かく行っている。	2か月に1回、運営推進会議開催時に「身体拘束廃止委員会」を行い、施設内自己点検と事例検討を行っている。指針・マニュアルを整え、年2回法人の職員研修（レポート提出）を行い、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修の機会を通じて、どのような行為が虐待となるかを知るとともに、発見時にはどのような対応が適切なのかを知る。また、管理者やケアマネ、看護師、スタッフ同士がオープンに話し合えるような関係を保つように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者がある。内部研修を通じて制度について知り、他の利用者にも必要か、などを考える機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすい説明を心掛けるとともに利用者や家族からの不安や疑問に、いつでも問い合わせて頂けることを伝えている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの制限解除後、運営推進会議への家族の参加が少しずつ増加。また、普段の面会の機会も増えたことから来所時にいつでもそのスタッフ宛にでもご意見を頂けることを伝えている。さらに、季節ごとの写真を添えるなどして様子がわかるように心掛けている。	運営推進会議開催時には、お便り「あっとほーむ」に写真を添えて、事業所での暮らしぶりを伝えている。コロナ禍でも家族の希望に合わせながら面会できる環境を整え（オンライン・玄関先面会など）、常に家族との意見交換に努めている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際に業務などについての意見や疑問などを話し合えるようにしている。また、個別でも希望に応じて施設長との面談の機会を設けている。	管理者は、毎月行うミーティングや年2回の個人面談にて職員との意見交換を図り、職員からの意見の吸い上げに注力している。毎月行う法人内部研修報告や全職員一斉LINEなどを活用して、職員からの意見や提案を聴き取る仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社の実施する人事考課を活用し、個々の技術や体調、年齢に合わせてその能力を発揮できるように心掛けている。また、勤務状況によっては他スタッフへの負担も考えられることから、状況に合わせて本社側に働きかけ、適切な環境が整えられるように相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社の実施する内部研修を講習として実施。また必要に応じて個別での指導や個々の能力や理解力などに合わせて、資格取得やトレーニングの受講を促進している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響により、事業所間同士の直接交流が困難であるが、管理者は市内連絡会などにオンライン参加するなどして、意見交換や講習会の機会を得ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、個々の要望などに耳を傾けながら環境を整え、精神面や体調面での変化に対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談から、本人と家族の両状況に目をむけながら情報収集するとともに、訴えに耳を傾けながら関係を築けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の様子や、家族環境などの情報を細かく集めながら連絡を密に取ることで、その時に最適なケアを提供できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態に合わせて、可能なレクや生活リハビリへの参加を促す他、他利用者とも一緒に過ごしながらその環境に馴染んでもらえるように働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	制限解除後少しずつ家族などの面会が増加していることから、その機会を大切にするとともに電話や様子の報告などを通じて、その関係性を保ち続けられるように努めている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親族とのかかわりあいを続けてもらえるように援助する他、希望に応じて連絡を取る、外出時などの支援を行っている。	コロナ禍でも、利用者の希望に応じた対応を心掛け、関係継続を図ってきた。訪問理美容の利用や、ボランティアの受入れ、他の利用者や職員との会話など、事業所での暮らしが馴染みの関係となるよう、配慮した支援を心掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や好みなどを把握し、気の合う方同士が心地よく過ごせるように配慮する他、周囲とのかかわりが難しい場合にもスタッフが関り孤立することが無いように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別サービスへの移行、退去など直接的なサービスが終了した後も本人や家族の求めに応じて支援できることをつたえ、対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの気持ちや要望を確認しながら、可能な限り寄り添えるように努めている。また、訴えることが難しい方についてはこれまでの様子などから推察し、穏やかに過ごしていただけるように心掛けている。	管理者・ケアマネジャーは、入居時に利用者や家族の思いや意向を聴き取り、職員と情報を共有している。入居後は見守りを強化して記録に残すとともに、グループLINEを活用して特化情報を流し、常に職員間の情報共有を図りながら、利用者・家族の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族などからの情報や個別に話す時間などを通じてこれまでの生活などを知り、好みや習慣などに合わせて引き続き過ごしやすいように環境を整えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態には差があるので、それぞれが無理なく過ごしていただけるように配慮する。また、スタッフがそれぞれの状況を把握して適切なケアが行えるように情報共有を細かく行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの訴えや、今の様子などを細かく確認しながら、管理者、ケアマネ、看護師、介護スタッフが常に意見交換を行い計画を作成している。	管理者・ケアマネジャーは、職員との申し送りや連絡ノートにより、6か月毎のモニタリングに繋げている。タブレットによる介護記録作成は、記載内容の統一と記載漏れ防止と共に、都度、職員との情報共有と気づきを抽出できることで、介護計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子入力の記録は、ケアの内容ごとに入力していくことでその時気づいたことなどが細かく残されている。さらに、どの職員も入力を行いながら確認することで情報共有につながるとともに、介護計画の作成にも活かされている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況や体調などの変化に合わせて、その時に必要なサービスが提供できるように連絡を密に取るほか、他のサービスを利用する場合にも不足なくケアがつながるように情報提供することなどを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響や、ADLの低下、重度化などにより積極的に地域との接触の機会を持つことが困難となっているがそれぞれの友人や家族などとの交流の機会を維持できるようにしたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などの意向を確認しながら、地域の総合病院への受診や訪問対応できる協力医などとの関係維持に努めるとともに、適切な医療が受けられるように情報共有や支援などを続けている。	月2回の訪問診療と法人の常勤看護師により、利用者の健康を管理している。利用者毎の訪問診療のため毎週協力医が訪問している状況で、常に相談できる状況である。地域総合病院への受診や24時間オンコール体制により、夜間緊急時でも安心して対応ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模多機能と兼務する看護師が、日々の業務に積極的に関わり、協力してケアすることで利用者の状態把握を共に行うことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者やかかりつけ医などとの連絡を密に取り、入退院時には家族と協力しながら情報共有でき利用に努めるとともに、出来るだけ早く退院して通常の生活に近づくことができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より家族や関係者との連絡を密にしながら、関係性を保つことでその意向の確認や、本人の様子や訴えなどに合わせた寄り添いができるように努めている。また、その変化に合わせて適切なケアが行えるように情報共有を細かくおこなっている。	看取りの指針を整え、入居時に事業所での対応を説明して、利用者・家族の同意を得ている。利用者の日頃の言葉を記録しながら、急変時には医師と共に再度家族の意向とともに確認し、希望に沿う対応を心掛けている。管理者・職員は、定期的に研修を受け、適切な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社が実施する研修に加えて、連絡体制や対応方法を可視マニュアル化することで、職員が状況に応じて動くことができるように働きかけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の立地条件からの懸念があるが、オンラインも活用しながら周辺状況の確認や情報収集を細かく行いながら、いち早く対応が出来るように心掛けている。	災害対策訓練は、春秋2回テーマを決めて実施している。備蓄品管理は、法人本部と協力しながら約1週間分の水を確保できる受水槽を設け、米等の食料と共に、ローリングストックにて管理している。	訓練実施により得た課題は、次回訓練へ継続され改善されることが重要なことから、継続した訓練計画の実践を期待します。令和5年度末までの災害時業務継続計画（BCP）策定に向け、事業所と地域住民との連携を含めた計画の検討を期待します。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人が年長者であり、それぞれのこだわりや人格などに合わせて、尊厳を損なうことが無いように注意し合いながらケアを行うように心掛けている。	個人情報保護や写真掲載について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。法人と管理者は、職員研修を定期的に行い、尊厳に配慮した職員の接遇や声掛けを促している。課題が散見された場合は、都度一斉LINEを活用して職員との情報共有を図り、適切な対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状況に応じた言葉や様子からの確認により、気持ちを汲み取ることや求めに応じることができるように努めている。また、小さなことから選ぶ機会をもったり要望を言葉にできるような働きかけができるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全面や体調などに配慮しながら、1人ずつでもみんなで一緒に、でも個々が望むペースを保って過ごすことができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族などの協力により、それぞれに合わせた季節らしい服装をしたり、訪問理美容サービスによりしい人らしい身だしなみを整えられるように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みやレベルに合わせて楽しんでもらえるように、食器や提供方法を工夫するとともにレクリエーションなどを通じて、好きなものを選んで食べる機会なども設けている。	配食サービスを利用しながら、ご飯・味噌汁を手作りして、利用者の好みに応じた食事を提供している。職員は、畑での野菜作りや手作りおやつ、行事特別メニューや外食の機会を設け、利用者の状態に配慮しながら食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示により制限のある場合も、個々の状態に合わせて過不足なく摂取できるように、食事の形態や内容などを調整しながら提供している。必要に応じて、栄養補給や補食などを行うことで栄養の確保や食事が苦痛とならないように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問対応の歯科医の指示のもと、それぞれに合わせた口腔ケアが行えるように心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間型の記録シートを使うことで個々の排泄のペースを把握しながら訴え時や適時に誘導を行えるように努めている。	24時間型の「記録シート」に記録して、利用者個々の排泄パターンを職員全員が把握することができる。把握している排泄パターンにより定期的な声掛けを心掛け、利用者の状態に応じた誘導・支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医の判断のもと、必要に応じた内服薬や水分摂取、腹部マッサージや運動などをおこない、体調不良にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全体的には午前中に入浴時間を設け、午後は休むなどのペースができている。また一人一人が入れ替わりながら入浴できるほか、体調や要望に応じて時間を変えるなどの対応できるようにしている。	毎日午前中を目途に、利用者の希望や状態に配慮しながら入浴を支援している。数種の入浴剤を利用したり、安全・安心に留意した介助支援を心掛け、利用者が気持ち良く入浴できるように、工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて、こまめに離床・臥床を支援することで体調を崩すことなく過ごしていただけるように努めている。また、それぞれに合わせて就寝支援を行えるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の処方ごとに情報提供を受け、管理者や看護師が内容などを把握。体調の変化に合わせて相談しながら適切に内服支援できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞購読の継続やこれまでの職歴・生活歴からの得意なことを活かしたレクの提供などを行い、それぞれが楽しんで過ごしていただけるように心掛けるとともに、季節の飾りや誕生日などの行事を通じて気分転換につながるようにと考えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	求めに応じて希望時毎に外出することが困難ではあるが、環境整備や家族の支援、介護タクシーなどの活用により実施できるように心掛ける。	事業所周辺の散歩や事業所内の畑作業など、家族の協力や地域資源（介護タクシー）を活用して、日常的な外出を支援している。今後も利用者全員での外出は難しいが、利用者の状態や希望を聴きながら、工夫した支援を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が個別に管理することは難しいが、希望者は手元に持ち外出時に支払いを行う他、希望に応じた買い物ができるように預かり金などを用意して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、代筆や代送、通話の支援やメールの送付など家族や関係者の状況に合わせた支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の整備を心掛け、室温管理や季節感のある掲示物、調光機能のある照明の活用を心掛けている。	毎朝の換気と定期的な消毒・清掃を行い、日中は常時換気とこまめな手指消毒により、感染防止・衛生に配慮した環境作りに努めている。職員は安全に配慮して整理整頓、室温や調光管理を行い、利用者がくつろげる共有空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの落ち着く席をある程度決めておくとともに、気分転換や状況に応じて変更したり、職員もケアに合わせて座るなどすることで落ち着いた空間となるように心掛けている。畳部分が落ち着く利用者には好きな時に過ごせるようにクッションなどを置き支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況や希望を確認しながら家族などの協力のもと、使いやすく心地よく過ごせるように居室を整えている。	クローゼット造り付けの居室は、馴染みの家具を置き、利用者好みの空間作りを心掛けている。毎日の清掃とこまめな布団干しと共に、入居前の生活や入居後の状態の変化に合わせて室内を整え、安全に配慮しながら個々の暮らしぶりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所期間が長くなりADLの低下、介護度や体調の変化に合わせて可能な限り居室の変更や配置換えを行うことで安全面の配慮を行うとともに、自分で出来るように慣れたものを使ったり、配置など工夫することで自立度が保たれている場合もある。		